



校長室から

校長 河須崎 恒

本校第 65 回卒業証書授与式が、厳粛な中、つつがなく挙行できましたこと、心からお礼申し上げます。お陰様で、276 名の新たな「鹿島高校卒業生」を送り出すことができました。ご



家族の深い愛情と卒業生一人一人の努力が実った結果なのはもちろんですが、励まし、支えてくださいました小中学校時代の恩師の先生方、そして地域の皆様に改めてお礼申し上げます。どうぞこれからも新米卒業生や本校在校生を、温かく見守りいただきたいと存じます。

276 名の新米卒業生は、新たに「鹿島高校同窓生」としてのスタートを切る事になります。「自治・勤勉・快活」という校訓のもと文武両道を目指して学びあった先輩方が、本校同窓会に約 22000 人もいらっしゃることは、とても心強く有り難いことです。どこかで新米同窓生と接するご縁がありましたら、厳しくそして温かいご指導を賜りますよう心からお願いいたします。

昨年末、新聞紙上で第 2 次県立高等学校再編整備の後期実施計画が発表されました。鹿島高校も、来月 4 月 28 日で創立 106 年を迎えます。歴史と伝統に甘んずることなく、地域で求められる人材を地域で育成することの出来る拠点校としての使命を果たすべく、学科改編に取り組んでまいります。平成 31 年度より、普通科「情報実務コース」を普通科に改編し、普通科全体に類型で「医療・理工コース」及び「国際コース」を設置します。これは、県内最大の鹿島臨海工業地帯をかかえる立地を有効に活用し、理数教育のみならず国際理解教育の充実を図り、地域のみならずグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す改編です。どうぞ、本校教育活動になお一層のご理解を賜わり、新米卒業生や本校在校生とともに、鹿島高校にご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

卒業おめでとう

『今はまだ、目の前の世界は真っ白なままで、不安で体が震える思いです。でもその一方で、真っ白な世界をどう歩いて行こうかという、わくわく感でいっぱいです。』



卒業生代表による答辞の一節です。生徒会長を務めていた彼女は、自分とみんなの三年間を振り返りつつ、明日への希望を「わくわく感」という言葉に込めていました。慣れ親しんだ学舎を旅立っていく寂しさもあったはず。けれどそれ以上に、新しい「真っ白な」明日への決意を込めた言葉に、同じ三年間を過ごしてきた私たちも心打たれていました。

2014 年 NHK 朝ドラ『花子とアン』の卒業式を思い出しました。ドラマの校長先生が、『人生は進歩です。若い時代は準備のときであり、最上のものは過去にあるのでは

なく将来にあります』と語っていました。この高校生活がどんなに楽しく、充実したものであったとしても、最上のものは常に未来にあらねばならないのです。

卒業生の、現在から未来への飛翔を、「最上の将来」を祈ります。

～ 3 月から 4 月の主な行事予定～

- 3 月 22 日：27 年度修了式
合格者説明会（新入生）
- 24 日：春季学力向上講座開始
進学希望者のための、外部講師による特別講座が開かれます。
- 4 月 6 日：28 年度始業式
- 7 日：入学式
- 8 日：対面式 等
- 27 日：新入生歓迎スポーツ大会
- 28 日：創立記念日（106 歳）

東北大学文学部人文社会学科合格！

一般入試で国立大学に 5 名（現 2 浪 3）合格しました。東北大学と下記 4 大学です。

東京学芸大学（教育支援過程多文化共生コース）

茨城大学（人文学部社会学科）

茨城大学（農学部地域環境科学科）

茨城県立医療大学保健医療学部放射線技術学科

これで、国公立大学・短大は、下記 5 名と合わせて 10 名となりました。（3/8 判明分まで）

【推薦入試による国公立大学・短大合格】

千葉大学文学部行動科学科

茨城大学農学部生物生産科学科

茨城大学工学部 A コース情報工学科

茨城県立医療大学保健医療学部放射線技術学科
大月市立大月短期大学経済科

【私立大学・短大、専門学校 全合格 3/7 迄】

（入試形態）	四大	短大	専門	計
指定校推薦入試	2 6	1 1	2 1	5 8
公募制推薦入試	1 1	2	9	2 2
A O 入試等	1 4	6	1 7	3 7
一般入試	8 1	1	1 6	9 8
計	1 3 2	2 0	6 3	2 1 5

【就職～公務員・民間】

	男	女	計
公務員	9	0	9
民間事業所	4 7	2 1	6 8
計	5 6	2 1	7 7

* 大学・短大・専門の合格数は現役生徒です。

* 公務員は重複合格を含みます。

公務員は、茨城県職員（1）、鹿嶋市職員（2）、及び、警察官・自衛官・消防官です。**民間企業**は、概ね好調に希望を達成しました。

鹿苑今昔⑭～105才で105回？～

今年の卒業式は＜第 65 回＞。しかし、本校は＜創立 105 年＞。数字が合わない。そこで『百年史』（**好評販売中!**）で調べてみた。

2016 = 65 であるから 1 = 1952

これは「茨城県立鹿島高等学校」としての数字。次に、それ以前の歴史。

1912 = 1 とあるので 40 = 1951

そして、＜ 65+40 = 105 ＞となり、今年の卒業式は 105 回目、となる。しかし、創立 105 年目で 105 回目の卒業式はあり得るのかどうか。どこかに変則的な事情があるのか。いずれの疑問もまだ解決しない。

鹿高なう～冬・県内大会結果～

サッカー部：第 3 位

陸上部：男子 4 × 400 m 第 8 位

男子 800 m 第 8 位

男子 やり投げ 第 7 位

女子 三段跳び 第 6 位

駅伝男子 総合第 4 位

女子バスケットボール部：第 5 位

剣道部：女子団体 勝ち抜き大会 第 3 位

弓道部：男子個人 第 3 位

女子ソフトテニス部：団体ベスト 16

石の上にも三年

思えばこの『鹿苑だより』も、今年の卒業生とともに、歩んできました。こんな形で、鹿島



市民の皆さんや、在校生の出身中学校に、鹿島高校の「今」をお知らせしてきました。この亀もたびたび登場させられて、随分有名になったとの噂。昨年春には、新入生が記念撮影していました。亀もご機嫌でした。でも、今年も卒業生を見送る亀、「寂しくなるね」と小さな声で言っていました。

編集後記：今日、2 回目の卒業式でした。

卒業式当日に風邪を引いてしまったのです。その後高校入試があり、やっと今日、来てもらいました。立派な挨拶も歌もない簡素な式でしたが、三年生の担当職員とお母様で卒業を祝いました。彼女は 4 月から家族と離れ、大学に進みます。就職者は自分の家から通う人が多いのですが、進学者の多数は、地元を離れることになります。旅立つ卒業生、残される家族、ともに慌ただしく過ごした後で、寂しい春を迎えることでしょう。今年は本号で最後です。

茨城県立鹿島高等学校 学校だより

『鹿苑だより』第 20 号（隔月刊）

発行：茨城県立鹿島高等学校

校長 河須崎 恒

編集：広報委員会

中沢雅彦 山崎律子